

令和6年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

学年	実施月日	生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3年	学校	157	50	44	5.7	14.1
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
	4月18日	全国	58.1	52.5	3.9	11.3

2 中学生チャレンジテスト

学年	実施月日	生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3年	学校	183	59.5	40.9	40.1	41.8	39.8	5.8	5.8	17.6	5.8	9.4
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	52.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.1	6.5
		大阪府	65.2	50.4	49.1	52.3	53.6	5.3	5.0	14.8	4.4	6.9

※ 3年生の理科はC問題を選択

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(3年生)結果

< 国 語 >

全体の平均正答率では府平均を5.7ポイント、市平均を5.9ポイント下回り、無回答率では府平均を0.5ポイント、市平均を0.9ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項において府平均を0.7ポイント、市平均を0.7ポイント下回っている。
- ・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.4ポイント、市平均を0.4ポイント下回っている。
- ・我が国の言語文化に関する事項において府平均を1.5ポイント、市平均を1.6ポイント下回っている。
- ・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を0.9ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を1.2ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を2.7ポイント、市平均を2.8ポイント下回っている。

< 社 会 >

全体の平均正答率では府平均を9.5ポイント、市平均を9.3ポイント下回り、無回答率では府平均を0.8ポイント、市平均を1.1ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- ・地理的分野に関する事項において府平均を5.9ポイント、市平均を5.9ポイント下回っている。
- ・歴史的分野に関する事項において府平均を3.6ポイント、市平均を3.4ポイント下回っている。

< 数 学 >

全体の平均正答率では府平均を9.0ポイント、市平均を8.7ポイント下回り、無回答率では府平均を2.8ポイント、市平均を3.3ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- ・数と式に関する事項において府平均を2.9ポイント、市平均を2.8ポイント下回っている。
- ・図形に関する事項において府平均を2.7ポイント、市平均を2.5ポイント下回っている。
- ・関数に関する事項において府平均を2.1ポイント、市平均を2.1ポイント下回っている。
- ・データの活用に関する事項において府平均を1.3ポイント、市平均を1.3ポイント下回っている。

< 理 科 >

全体の平均正答率では府平均を10.5ポイント、市平均を10.3ポイント下回り、無回答率では府平均を1.4ポイント、市平均を1.7ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- ・「エネルギー」に関する事項において府平均を1.6ポイント、市平均を1.6ポイント下回っている。
- ・「粒子」に関する事項において府平均を2.2ポイント、市平均を2.3ポイント下回っている。
- ・「生命」に関する事項において府平均を4.2ポイント、市平均を3.9ポイント下回っている。
- ・「地球」において府平均を2.4ポイント、市平均を2.4ポイント下回っている。

< 英 語 >

全体の平均正答率では府平均を13.8ポイント、市平均を14.2ポイント下回り、無回答率では府平均を2.5ポイント、市平均を2.9ポイント上回っている。領域別での平均正答率では、

- ・聞くことに関する事項において府平均を3.5ポイント、市平均を3.7ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を4.6ポイント、市平均を4.7ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を5.8ポイント、市平均を5.8ポイント下回っている。

【今後に向けて】

< 国 語 >

言葉の特徴や使い方に関する事項において、毎度の授業で小4～小6で学習した漢字のテストを行い、語彙に関する力を伸ばすよう、継続した指導を行い、これらの活動が今回の回答率や正答率の上昇につながった。「聞き手を意識し、自分の考えが明確に伝わるように話の構成を整理して考えることができる」「目的や意図に応じて材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる」ことに関する設問の正答率が、府の平均より大きく下回る結果となった。「話すこと・聞くこと」では主体的に生徒自身が課題意識を持って「伝えよう」と思って書いたり、発表したりする機会を多く取り入れた授業構成が求められる。今後、言葉の使い方や書くことに関する事項においての指導を継続して行き、話し合いや発表などの活動を工夫し、話すこと・聞くことに関する事項の基盤となる力をつけさせていく。

< 社 会 >

無回答率を下げるため、小テスト・課題プリントを通して全ての設問に答えるよう指導する必要がある。地理的分野、歴史的分野が両方とも平均を下回っており、基礎学力の定着が不足している。特に地理的分野の平均ポイントが低いことから、定期的に地理的分野の復習や、確認問題を実施するなどの取り組みが必要である。また、記述や資料の読み取りの問題に対しても弱点として確認ができるので、それに対する対策も必要である。

< 数 学 >

大問1、大問2の部分で、大阪府の平均点を上回れるような対策が必要と考える。具体的に、授業内で定期的にチェックテストを実施し、生徒一人ひとりの計算力や1行問題への理解度を把握しながら、個々の学力向上を図る。苦手な部分やつまづきやすいポイントを早期に発見し、それぞれの課題に応じた指導を行うことで、確実な理解を深めていきたい。また、反復学習の時間を増やし、繰り返し学習する機会を設けることで、基礎的な学習を定着させることを目指す。

< 理 科 >

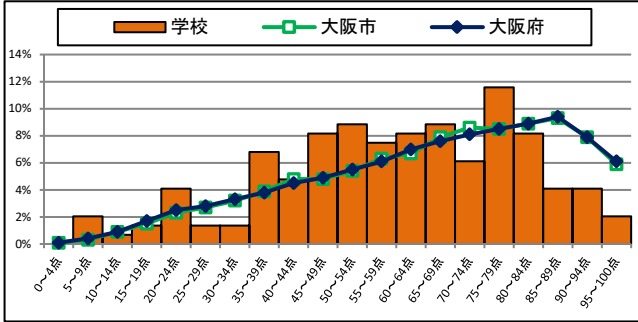
生命分野での点数の下落が顕著であり、基礎的な学習を定着させ早急に改善したい。エネルギー分野、得に電磁気での平均点の落ち幅も目立つため、受験前の2学期に重点的に取り組む。興味のもてるテーマを提示し、理科そのものへの苦手意識、忌避感情を解消したい。

< 英 語 >

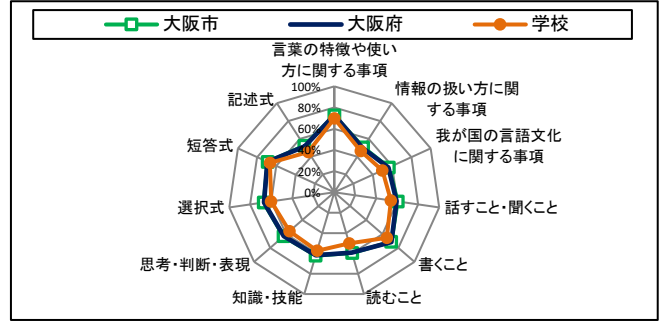
学習意欲を高め、英語を楽しめる活動や進捗が見える化する仕組みを取り入れる。リスニング力の向上のため、より日常的に英語を聞く環境を整える。読解力については、語彙力や文法力を基礎から強化し、反復で繰り返し学習することで読解力を身につける。書く力は、短文作成からはじめて、テンプレートを用いた作文指導を行い、生徒が表現する楽しさを感じられる工夫する。

【国語】

【得点分布】

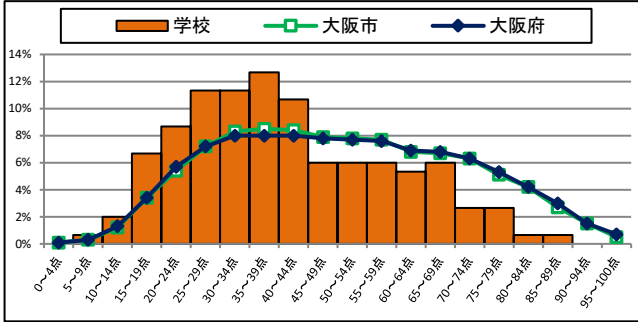


【領域・観点・問題別の分布】

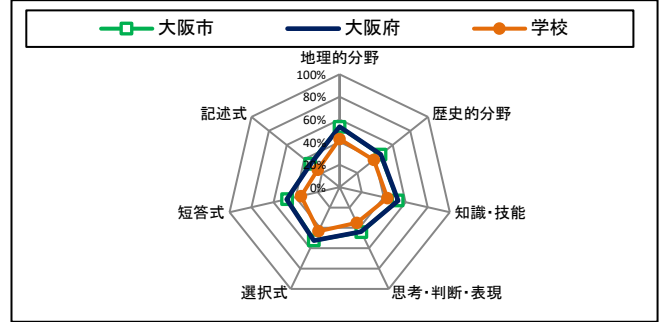


【社会】

【得点分布】

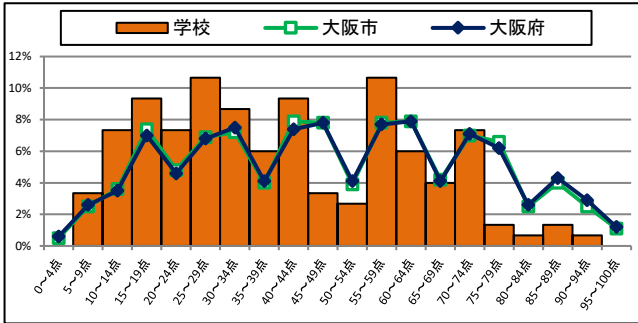


【領域・観点・問題別の分布】

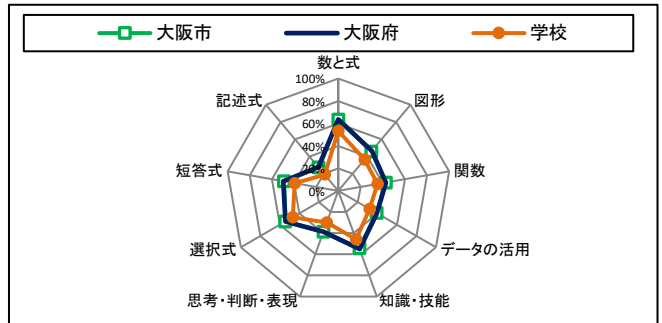


【数学】

【得点分布】

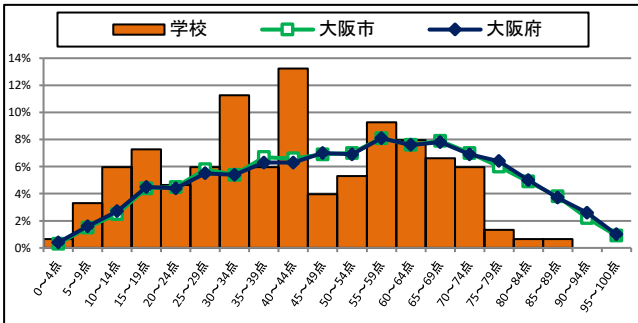


【領域・観点・問題別の分布】

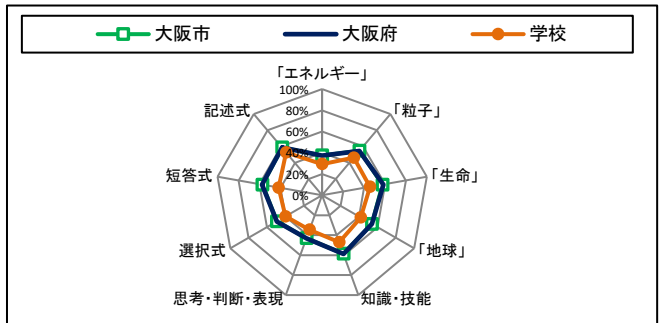


【理科C】

【得点分布】

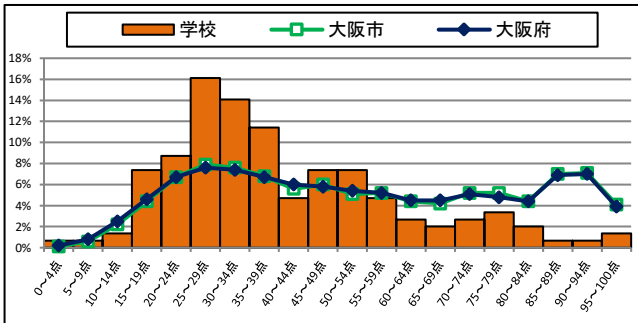


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

